

こんにちは！第五南自主防災です

第五地区南連合自主防災会だより <第10号>

令和7年6月1日



第五地区南連合自治会

自治会長 小林 昭

5月15日、沼津市は防災体制強化のため、白土靖行さんを防災アドバイザーに委嘱しました。白土さんは東日本大震災の発生時に岩手県山田町の危機管理室長として災害対応の陣頭指揮に当たられた方です。

山田町は約23kmの海岸線を有していますが、地震に伴う火災と津波により壊滅的な被害を受けました。そのホームページには「3・11 残し、語り、伝える岩手県山田町 東日本大震災の記録」という震災記録誌が掲載されています。冒頭、「刊行にあたって」と題し、山田町々長の佐藤信逸さんが次のような文を寄せているので抜粋して紹介させていただきます。

東日本大震災は私たちの愛する人たちや大切な物を全て奪っていきました。(略) このような現実がよもや目の前に現出するとは誰が想像したでしょうか？現実を決して認めたくない自分がいました。しかし現実の問題として受け止めなくてはいけないとも思いました。

私が小学1年生の時のチリ地震津波以来、津波にあうのは三陸沿岸に住む者の宿命だと肝に銘じてきましたが、堤防をはじめ文明の力が自然の力を制御してくれるだろうと漠然と考えていました。その様な考えを津波は一蹴し、去って行きました。

われわれが自然の中に生かされていることをまざまざと思い知らされた時でした。(以下略)

「堤防があるから大丈夫だ」・「ハザードマップを見てもこの地域には被害が及ばない」・「地震なんてまだ先の話だ」・「いざとなれば行政がなんとかしてくれる」等々、私たちの心の片隅にもそんな思いが密かに潜んでいるのではないのでしょうか？「最初から行政頼みでは無く、自分の命は自分で守る。自分たちの町は自分たちで守る」 時間がかかるかもしれませんが、そんな意識の積み重ねが真の自主防災に繋がるのだと思います。

延長距離64kmの海岸線を有す沼津市では、特に静浦・内浦・西浦・戸田への津波による被害が懸念されます。人命救助が第一ですが、津波や土砂崩れによる建物倒壊、その影響による道路の寸断、複数の孤立地域の現出等々、負の連鎖には心配が尽きません。私たちが自立性を持って、自分や家族を守ることが出来れば、そのぶん行政は、三浦や戸田をはじめとする沿岸部に住む方々の支援に注力出来るのではないのでしょうか？それも共助の一つだと考えられます。

『われわれは自然の中に生かされている』この言葉を胸に刻み、皆で共有したいと思います。

<お知らせ> 梅雨入りが近づいています。大雨や台風の影響で建物が浸水し、そのために発生したゴミ(水に浸かった畳・家具・家電製品など)については通常の日常ゴミとは別に「臨時集積場」を設け、分別排出をお願いしています。「臨時集積場」の設置をご希望の際は沼津市環境政策課 廃棄物対策係までご連絡下さい。TEL:055-934-4743